

---

日本図書館文化史研究会  
ニューズレター

第 89 号 2004 年 8 月 8 日

日本図書館文化史研究会

〒101-8301 千代田区神田駿河台 1-1  
明治大学司書・司書教諭課程  
郵便振替口座 00170-5-164973

(事務局)

小黒浩司

ファックス

電子メール [oguro@sakushin-u.ac.jp](mailto:oguro@sakushin-u.ac.jp)

---

■■ 目 次 ■■

|                                |    |
|--------------------------------|----|
| 日本図書館文化史研究会 2004 年度研究集会・総会のご案内 | 2  |
| 日本図書館文化史研究会 2003 年度活動報告        | 10 |
| 日本図書館文化史研究会 2003 会計年度決算報告      | 11 |
| 日本図書館文化史研究会 2004 年度予算(案)       | 12 |
| 2004 年度第 1 回研究例会報告             | 13 |
| 『図書館文化史研究』第 21 号がまもなく刊行されます    | 16 |
| 運営委員会通信                        | 17 |
| 事務局だより                         | 18 |
| 会費納入のお願い                       |    |
| 会員動向                           |    |

## 日本図書館文化史研究会 2004 年度研究集会・総会のご案内

2004 年度日本図書館文化史研究会研究集会・総会を、下記のように開催することになりました。

今年度の研究集会は、会場校である京都精華大学情報館の見学会、河井弘志先生の特別講演、シンポジウムなど、充実した内容となりました。多くの方のご参加を期待します。

### 記

- 日 程 2004 年 9 月 11 日 (土)・12 日 (日)
- 会 場 京都精華大学 黎明館 001 教室
- 交 通 京阪出町柳駅から叡山電車鞍馬行き (または二軒茶屋行き、市原行き) に乗り換え、京都精華大前駅下車徒歩 1 分  
京都駅から京都市営地下鉄烏丸線国際会館駅下車、タクシーワンメーター程度  
※ 会場・交通案内の地図は 9 ページに掲載しました。また、次のアドレスをご参照ください。  
※ 11 日のみスクールバスあり (当日のダイヤも次のアドレスをご参照ください)。  
<http://www.kyoto-seika.ac.jp/annai/index.htm>
- 参加費 会 員 1,500 円  
非会員 2,000 円  
懇親会 5,000 円
- 申込方法 次の事項を明記して、下記まで電子メール、または葉書でお申込ください。
  - ・氏名 (ふりがな)
  - ・会員・非会員の別
  - ・所属
  - ・情報館見学会参加の有無
  - ・懇親会参加の有無
- 申 込 先 京都精華大学人文学部 田口瑛子  
電子メール :
- 申込締切 8 月 22 日 (必着)

○ プログラム

第1日

- 11:30-12:00 京都精華大学情報館見学（職員のガイドつき）  
 コミック漫画資料、AV 資料等の特色あるコレクション  
 準備の都合上、事前申込者のみの見学とし、当日参加は受け  
 付けません
- 12:00～ 受付開始
- 12:30-14:00 特別講演「図書館史と図書館思想史と図書館学史」  
 河井 弘志
- 14:10-17:30 シンポジウム「戦後公共図書館実践の再検証」  
 パネリスト 石塚 栄二  
 伊藤 昭治  
 塩見 昇
- 17:40-19:30 懇親会（京都精華大学学生食堂・会費 5,000 円）

第2日

- 9:45～ 受付開始
- 10:00～11:00 個人発表 1 : 20 世紀前半のドイツの公共図書館と女性  
 滝野 晶子（玉川大学通信教育学部学生）
- 11:00～12:00 個人発表 2 : 学校図書館蔵書をめぐる合衆国判決群の論点  
 前田 稔（東京学芸大学）  
 （昼 食）
- 13:00～14:00 個人発表 3 : 間宮不二雄と『図書館雑誌』、『図書館研究』  
 志保田 務（桃山学院大学）
- 14:00～14:30 個人発表 4 : ドイツの図書館史研究：最先端  
 ピーター・ヴォドセク（Peter Vodosek）  
 （シュトゥットガルト専門大学）  
 翻訳発表：佐橋 恭子（京都大学大学院教育学研究  
 科図書館情報学研究室）  
 金城まりえ（京都ドイツ文化センター）
- 14:30～15:30 会員総会
- 15:30～16:30 運営委員会

※ 昼食について

会場周辺には食堂等の施設がありませんので、各自昼食のご用意をお願いします。なお、11 日（土）は、学食の利用ができる見込みです。

研究集会会場隣に、昼食・休憩室を用意しました（黎明館 002 教室）。

## 第1日

## 特別講演

## 河井 弘志

## ● 講演題名

図書館史と図書館思想史と図書館学史

## ● 要旨

石井敦さんが、図書館制度史、図書館運動史、図書館人物史のほかに、図書館サービス史が必要だ、と話されたことがある。ひとくちに図書館史といっても、図書館のどの側面に光をあてるかによって、さまざまな歴史が描かれるのである。しかしこれまでの図書館史研究ではこうした区別への配慮が乏しく、「図書館史」の名のもとに、図書館設立史、図書館運動史、図書館制度史、図書館人物史、あるいは図書館思想史が記述されてきたように思われる。

私の場合、人物史、思想史に傾いた歴史研究であった。ヴァイマンのいう精神史と社会史でいえば、私の目はおおむね精神史に向けられ、保守的、観念論的な図書館史になっていた。それはむしろ図書館の思想や理論が図書館の歴史を動かしてきたという楽天主義からではなく、図書館の歴史を動かす要因として、思想や理論がどれだけ力をもってきたのかを知りたいためである。しかし遺憾ながら、図書館思想や理論と事実史の接点の究明は十分でなかったと反省している。

ドイツの図書館史学者ヴォドセク氏は、過去の雑誌に掲載された公共図書館関係論文をテーマ別に収集して、公共図書館史の資料集として公刊してきた。これも公共図書館の史実の記録ではなく、公共図書館思想史の資料集であるが、彼には公共図書館の制度史、運動史にも数多くの著作があるので、図書館史から遊離していたと批判するわけにはいかない。

図書館思想と図書館学の関係は必ずしも自明ではない。思想は生き方をきめる世界観であろうが、それはすべて論理的に明快でなく、鶴見俊輔のいうような「思想のあいまいさ」という特性が図書館思想にも存在する。これにたいして図書館学は常に明快な論理を求めるが、自らの生き方には必ずしも結びつかない面が許されている。つまり図書館思想層は実践により近く、図書館学は実践から離れているのである。図書館史、図書館思想史、図書館学史は、実践との距離において大きな差があるといえよう。

阿部謹也は「思想とはある個人の生の営みのなかでそれと不可分に生み出されたものであるから、個々人の生と思想のかかわりに重点をおいてとらえる仕方もある」という。たとえば図書館制度史においては、人間は現実の姿を消して無機質になり、抽象的な制度が前面に出てくるが、その点、人物史、思想史、学史には生きた図書館員や利用者があり、彼らをとおして、図書館のありかた、あるいは思想の共鳴や対立、さらには理論の発展が考察される。後者のアプローチによって、精神史と社会史の混合する世界のなかで図書館の歴史を記述し、解明する道も可能ではないかと思う。

東ドイツ時代のグレグーレッツは、図書館学が実践から遊離しないために、図書館学史は図書館史の一部分として記述されるべきだと言った。これにたいしてドゥーベは、図書館学が隣接諸科学から孤立することを避けるために、図書館学史は隣接諸科学の歴史との関連において記述されるべきだと論じた。いずれも図書館学の孤立を避けるための方法であるが、図書館学を図書館の事実史との関係で評価するか、隣接科学との関係で評価するかによって、得られる結論は大きく違ってくる。

単純に事実を記述するだけの図書館史でなく、より大きな社会発展史の図式のうえに図書館史をのせて意味づけを与えることによって、図書館史を世界史にむすびつけるアプローチがある。一方、世界史の精神史を図書館思想に重ねて、図書館の歴史的な位置づけを見出そうとする手法も存在した。いずれも外から図書館を評価するという方法である。しかし私は、図書館史、図書館思想史、図書館学史のなかにもぐりこんで微視的に考察しながら、その過程で見えてくる周辺の文化や隣接科学とのつながりをときほぐしていくことによって、図書館史を世界史に編入するという方法もあっていいのではないか、と思う。

## シンポジウム

- パネリスト

石塚 栄二

伊藤 昭治

塩見 昇

- テーマ

戦後公共図書館実践の再検証

- シンポジウムの趣旨

20世紀末から21世紀初頭の今日、現代社会は国内外を問わず、文字通り激動の時代に入っている。図書館もこの社会変動と無縁ではない。むしろこれと深く結びつきながら、さまざまな問題や課題に現在直面している。

こうした問題の一つは、現在「構造改革」政策の下で推進されている、企業委託、指定管理者制度、PFIなどにみられる図書館サービスの市場化、市町村合併にともなう図書館の縮小再編などにみられる問題群である。これらの政策は、とくに70年代以降、住民、図書館員、自治体の共同の中で積み上げてきた「住民の権利としての図書館」のあり方を一気に突き崩してゆく危険性をはらんでいる。

他方で、この40年近くの間、『中小都市における公共図書館の運営（中小レポート）』（1963）、『市民の図書館』（1970）を指針とした図書館づくりの実践が進められる中で、図書館の普及と利用は飛躍的に高まり、利用者層に大きな変化がみ

られる。また、社会生活構造やメディア環境の変化も生じている。それらにともない利用者＝住民の図書館に対する要求も、より多様により高度になっている(利用者の成熟化というべきか)。

しかしこうした環境の変化や要求に図書館が十分応えているかという点、必ずしもそうとはいえない現状がある。そこには構造改革政策や専門職制度の未確立、図書館の官僚制化現象など種々の要因も見いだされようが、別の見方をすれば、図書館の発展自らが作り出してきた課題(壁)ともいえる。

さらにこうした動きを背景に近年、出版関係者や中堅研究者を中心に、『市民の図書館』なかんずく「貸出し」を基礎にしたこれまでの図書館サービスのあり方に対し、図書館のパラダイム転換を求める議論が起こっている。

こうした中で、本年度のシンポジウムのテーマを「戦後公共図書館実践の再検証」としたのは、図書館の未来を見通すための視座と基軸をえるためである。そのためには、戦後公共図書館実践の歴史的検討は不可欠の作業であると考えられる。戦後公共図書館実践が何を課題とし、その課題にどのように取り組み、どのような成果と課題を残したのか、このことを正確に認識する必要があると考えるのである。このことは、近年の図書館政策や『市民の図書館』批判において、戦後図書館実践に対する無関心、性急で乱暴な議論が横行している状況をふまえるときとりわけ重要に思われる。

そこで本シンポジウムでは、塩見昇氏、伊藤昭治氏、石塚栄二氏を報告者として迎え、戦後公共図書館実践の再検証を試みようとするものである。三氏とも、図書館員として戦後公共図書館実践の過程に主体的に深く関わってきた経歴をもつとともに、後に研究者としても、図書館実践の理論化と理論の実践化に力を注いできた経歴をもっている。

塩見氏には、戦後図書館実践の歴史過程どう見るかを総論的に論じていただくとともに、『市民の図書館』批判論の問題点を含む、図書館理論と実践の今日的課題に言及していただきたいと考えている。

伊藤氏には、神戸市立図書館のレファレンス・サービスの実践、『中小レポート』から『市民の図書館』へと図書館実践が進められていく中で、図書館現場では図書館員が何を課題とし、どのような実践的思想を作り上げていったのかを、自身の体験もふまえ、論じていただきたいと考えている。

石塚氏には、氏自身 60 年代において『中小レポート』作成のための調査に参加された経験、図書館の自由に関わる仕事に携わってこられた経験から、戦後の図書館理論の形成とその問題について論じていただきたいと考えている。

第2日

個人発表

【発表1】 10:00-11:00

滝野 晶子（玉川大学通信教育学部学生）

- 発表題名  
20世紀前半のドイツの公共図書館と女性
- 発表要旨

20世紀はじめに入り、公共図書館が広まりをみせてきた時期のドイツの女性と図書館について。特に公共図書館と女性職員に焦点を当てる。当時の貸し出しカードから導き出せる女性利用者は、「女性教師」「無職の女性」「女学生」「商業・手工業の職業婦人」があげられる。また、公共図書館と女性利用者に焦点を当てると、1907年に図書館で働く女性の協会が結成され、「ドイツ婦人団体連合」というドイツ最大の女性団体組織の中にはいていた。その組織には、種々の活動領域（改良服、禁酒、幼稚園、女性参政、大学教育など）を持つ団体や、地域的な協会や宗派組織、教師、事務員、郵便・電報公務員、産婆の女性職業団体が加入していた。そのなかで決して大きくはなかった図書館で働く女性の協会であったが、どんな役目を女性運動の中で果たしていったのかをみていく。

【発表2】 11:00-12:00

志保田 務（桃山学院大学）

- 発表題名  
間宮不二雄と『図書館雑誌』、『図書館研究』
- 発表要旨

間宮不二雄が青年図書館員聯盟の創設者であり、同連盟による『日本目録規則1942年版』や『図書館研究』の出版元・間宮商店の店主であることは知悉されている。また、もり・きよし編『日本十進分類法』、加藤宗厚編『日本件名標目表』などをも刊行し、『整理の三大規矩』の編集を実質的にリードしたことは、改めて言うに及ばないほどに有名である。以上の諸点を見ただけでも、間宮不二雄の日本の図書館界に対する貢献は偉大である。しかし、私は、彼および青年図書館員聯盟に対する研究が、日本の図書館史学上、未だ十分とはいえないのではないかと考える。

本稿は、間宮不二雄の編集になる大正末期の『図書館雑誌』（日本図書館協会機関誌）と、同誌の任を解かれて後発刊した『図書館研究』の編集方針および編集内容について評価を試み、彼および青年図書館員聯盟に対する研究の一隅を埋めたいと考える。とくに、間宮不二雄における標準性の追究について検討したい。

【発表3】 13:00-14:00

前田 稔 (東京学芸大学)

● 発表題名

学校図書館蔵書をめぐる合衆国判決群の論点

● 発表要旨

合衆国裁判所は学校図書館蔵書除去事件に関して、数々の判決を下してきた。本発表では以前からの研究を一步進め、プレジデント事件判決とミナーシニイ判決を両極とした各判決の論点を整理しつつ、問題点を明らかにする。

【発表4】 14:00-14:30

ピーター・ヴォドセク (Peter Vodosek) (シュトゥットガルト専門大学)

翻訳発表：佐橋 恭子 (京都大学大学院教育学研究科図書館情報学研究室)

金城まりえ (京都ドイツ文化センター)

● 発表題名

ドイツの図書館史研究：最先端

● 発表要旨

ピーター・ヴォドセク氏はドイツ公共図書館運動史研究の第一人者である。氏は本稿でドイツにおける図書館史研究に関する近年の動向を簡潔にまとめ、さらに現在ある図書館史研究グループの1つであるヴォルフエンビュッテル図書館史・図書史・メディア史研究会を紹介している。

時代の流れとともに、図書館学分野において図書館史研究が軽視されていくなか、氏はこれまでの歴史研究の業績を評価し今後さらなる発展を期待している。

“Future needs origin.”と本稿を締めくくり、“history is necessary to shape the future” - 歴史が未来を形作ると歴史研究の必要性を説いている。

## 会員総会

次のような案件の審議を予定しています。多くの方のご参加をお願いします。なお、その他検討すべき議案などがあれば、事務局までご連絡ください。

### 議事内容

1. 日本図書館文化史研究会 2003 年度活動報告(2003.4-2004.3)

2003 年度の本会の活動内容をご報告します。10 ページの資料をご参照ください。

2. 日本図書館文化史研究会 2003 会計年度決算報告(2003.4-2004.3)

2003 会計年度の本会の決算をご報告します。11 ページの資料をご参照ください。

3. 日本図書館文化史研究会 2004 年度予算（案）  
2004 年度の本会の予算、ならびに活動計画を提案します。12 ページの資料をご参照ください。
4. 創立 25 周年記念事業について  
創立 25 周年記念事業の運営委員会案について、ご審議をお願いします。
5. 2005-2007 年度運営体制について  
2005-2007 年度の運営体制について、ご審議をお願いします。

#### お詫びと訂正

『ニューズレター』前号（p.6）で、発表者滝野晶子氏のお名前を、誤って記載しました。お詫びして訂正します。

会場案内

## 日本図書館文化史研究会 2003 年度活動報告(2003.4-2004.3)

### 1. 第 20 回研究集会・総会の開催

参照：『ニューズレター』第 86 号

期 日 2002 年 9 月 20・21 日

会 場 青山学院大学

- 第 1 日目は「レファレンスサービスの歴史と展望」と題して特集を組み、基調講演とシンポジウムを実施した。第 2 日は個人発表 4 件と総会を実施した。
- 総会では、2002 年度活動報告、2002 年度決算報告、2003 年度予算等が審議された。

### 2. 機関誌『図書館文化史研究』第 20 号の刊行(2003 年 9 月)

20 周年記念シンポジウムの記録等を掲載し、刊行した。

### 3. 会報『ニューズレター』の編集刊行

第 84 号を 2003 年 5 月、第 85 号を同 8 月、第 86 号を同 10 月、第 87 号を 2004 年 2 月に刊行した。

### 4. 研究例会

(1)第 1 回例会（期日：2003 年 5 月 31 日、会場：京都大学教育学部）

3 件の発表を実施した。

参照：『ニューズレター』第 81 号

(2)第 2 回例会（期日：11 月 29 日、会場：東京学芸大学）

1 件の発表を実施した。

参照：『ニューズレター』第 83 号

(3)第 3 回例会（期日：2004 年 3 月 6 日、会場：大阪府立中之島図書館・大阪市中心中央公会堂）

1 件の発表と府立中之島図書館の見学会を実施した。

参照：『ニューズレター』第 84 号

### 5. 運営委員会の開催

5 月 31 日（京都大学）、9 月 21 日（青山学院大学）、11 月 29 日（東京学芸大学）、3 月 6 日（大阪市中心中央公会堂）の 4 回実施。

### 6. 会員動向

2004 年 3 月末日現在：152 名（うち名誉会員 3 名、2003 年 3 月末：146 名）

新入会：12 名（2003 年度：10 名）

退 会：6 名（2003 年度：4 名）

| 日本図書館文化史研究会<br>2003会計年度決算報告(2003.4-2004.3) |                  |                                |
|--|------------------|--------------------------------|
| <b>収入</b>                                  | <b>1,008,513</b> |                                |
|  | <b>金額</b>        | <b>備考</b>                      |
| 郵便局貯金利子                                    | 16               |                                |
| 会費   | 458,230          |                                |
| 02年度分                                      | 36,000           | 12名                            |
| 03年度分                                      | 417,000          | 139名、他に前年度納入済7名、名誉会員3名、未納7名    |
| 04年度分                                      | 12,000           | 4名                             |
| 05年度分                                      | 3,000            | 1名                             |
| 同振込手数料                                     | -9,770           | 70円131件、60円10件、自己負担2件          |
| 第3回研究例会剰余金                                 | 789              |                                |
| 2002年度繰越金                                  | 549,478          |                                |
| <b>支出</b>                                  | <b>474,300</b>   |                                |
|  | <b>金額</b>        | <b>備考</b>                      |
| 『図書館文化史研究』20号制作・発行費                        | 274,608          |                                |
| 日外支払い                                      | 243,705          |                                |
| 〃 追加                                       | 1,596            |                                |
| 〃 追加                                       | 1,397            |                                |
| 〃 海外送料                                     | 1,750            | 1通*870円、1通*680円、国内1通*200円      |
| 奥泉氏立替送料                                    | 5,010            |                                |
| 抜き刷り制作費                                    | 17,745           |                                |
| 〃 振込手数料                                    | 105              |                                |
| 〃 送料                                       | 3,300            |                                |
| 『ニューズレター』84号制作・発行費                         | 33,170           |                                |
| 印刷費  | 18,900           |                                |
| 同送料  | 13,680           | 152通*90円                       |
| 同海外送料                                      | 590              | 2通                             |
| 『ニューズレター』85号+会員名簿制作・発行費                    | 73,235           |                                |
| 85号印刷費                                     | 28,350           |                                |
| 会員名簿印刷費                                    | 18,900           |                                |
| 〃 送料                                       | 24,130           | 146通*160円、7通*110円 (クロネコメール便使用) |
| 〃 収入印紙                                     | 200              |                                |
| 〃 海外送料                                     | 1,340            | 2通                             |
| 〃 振り込み手数料                                  | 315              |                                |
| 『ニューズレター』86号発行費                            | 32,740           |                                |
| 印刷費  | 17,850           |                                |
| 〃 送料                                       | 14,510           | 158通*90円、1通*80円                |
| 〃 海外送料                                     | 380              | 2通                             |
| 『ニューズレター』87号発行費                            | 31,835           |                                |
| 印刷費  | 16,800           |                                |
| 〃 振り込み手数料                                  | 105              |                                |
| 〃 送料                                       | 14,740           | 162通*90円、2通*80円                |
| 〃 海外送料                                     | 190              | 1通                             |
| 2003年度研究集会補填金                              | 1,332            |                                |
| 第1回研究集会補填金                                 | 1,757            |                                |
| 事務局経費                                      | 25,623           |                                |
| 通信費  | 13,690           | 詳細別紙                           |
| 事務用品購入                                     | 6,023            | 詳細別紙                           |
| 運営委員会等開催費                                  | 1,640            | 詳細別紙                           |
| 交通費  | 4,270            | 詳細別紙                           |
| 2004年度への繰越金                                | 534,213          |                                |
| 監査の結果、帳簿の記入、事務処理が適正に行われていたことを報告します。        |                  |                                |
|  | 監事               | 山本 順一 印                        |
|  | 監事               | 山口源治郎 印                        |

| 日本図書館文化史研究会2004年度予算(案) |                  |            |
|------------------------|------------------|------------|
| <b>収入</b>              | <b>1,030,034</b> |            |
|                        | <b>金額</b>        | <b>備考</b>  |
| 郵便局貯金利子                | 21               |            |
| 会費                     | 429,800          |            |
| 04年度分                  | 420,000          | 140名×3000円 |
| 同振込手数料                 | 9,800            | 140名×70円   |
| 研究会・集会参加費              | 65,000           |            |
| 第2回例会                  | 5,000            | 10名*500円   |
| 第3回例会                  | 5,000            | 10名*500円   |
| 研究集会                   | 55,000           | 50名*1000円  |
| 雑収入                    | 1,000            | 予稿集売り上げ    |
| 2003年度繰越金              | 534,213          |            |
|                        |                  |            |
|                        |                  |            |
| <b>支出</b>              | <b>536,323</b>   |            |
|                        | <b>金額</b>        | <b>備考</b>  |
| 『図書館文化史研究』21号発行費       | 300,000          |            |
| 『ニューズレター』発行費           | 134,935          |            |
| 84号                    | 35,935           | (発行済)      |
| 85号                    | 33,000           |            |
| 86号                    | 33,000           |            |
| 87号                    | 33,000           |            |
| 研究会・集会運営費              | 66,388           |            |
| 第1回例会                  | 1,388            | (実施済)      |
| 第2回例会                  | 5,000            |            |
| 第3回例会                  | 5,000            |            |
| 研究集会                   | 55,000           |            |
| 事務局経費                  | 35,000           |            |
| 通信費                    | 10,000           |            |
| 事務用品購入                 | 10,000           |            |
| 運営委員会開催費               | 10,000           |            |
| 交通費                    | 5,000            |            |
|                        |                  |            |
| 2005年度への繰越金            | 493,711          |            |

## 2004 年度第 1 回研究例会報告

実施日：2004 年 6 月 19 日

会場：明治大学アカデミーコモン

6 月 19 日、2004 年度第 1 回研究例会が、この春完成した明治大学「アカデミーコモン」8 階の同大学司書・司書課程室を会場に開催されました。参加者は 17 名と、前回同様の盛会でした。

### 【発表 1】

- 発表者

小川 徹

- 発表題名

「司書」が何故明治期図書館専門職の名称として採用されたのだろうか  
発表要旨

過去を振り返ってみると、文庫の係としての司書という言葉は古代・中世には使われなかったと考えられる。江戸時代になると藩校の文庫の係名として、司典、司籍、典籍、書籍掛、書物奉行などとともに、司書は庄内藩・致道館などいくつかの藩校にみえる。明治初年藩校の改革にともない、佐賀藩などで使われている。

△ちなみに司書は中国では古く『周礼』に見え、会計の簿書を司った。

近代初頭、図書館員の呼び名として書籍館の館吏（閲覧規則）、外国の図書館事情の紹介のなかで吏員（「米国教育局年報抄」）、フランスの王立書籍院の掌書、副掌書（『仏国学制』）、司者（『米国百年期博覧会教育報告』）とする事例がある。そして「司書」が近代の図書館で専門職の呼び名として登場したのは、1891（明治 24）年 7 月東京図書館官制の改正によってである。後 1897 年公布された帝国図書館官制では、司書長・司書となり、司書長は後に司書官となる。

ではなぜ東京図書館で「司書」という言葉が専門職の名称として採用されたのであろうか。1888 年 8 月から一年半図書館に関する調査研究のために欧米に留学して帰国、1890 年 3 月東京図書館長に就任した田中稲城の意見が用いられたのではないかと思われるのであるが、はっきりしたことは分からない。あるいは部下に意見を聞いたかもしれない。いくつかの案があったかもしれない。どんなプロセスがあったのか。以下は憶測に過ぎないが、いかがであらうか。

田中稲城は 1856（安政 3）年周防国に岩国藩士末永藤蔵の三男として生まれ、後田中家の養子となる。1865（慶応元）年岩国藩立養老館に学び、明治 3 年藩立中学校、その後同藩立英語学校に学んだ（その後東京に出る）。その養老館、後の藩立中学校の書籍出納係は司籍であった。

田中は欧米にあって図書館における専門職についての認識を得たことであらう。

その時、かつて学んだ藩校の司籍は身近な事例として想起されたのではなかろうか。さらに（おそらく帰国後広く事例を探って）少なくない藩校の文庫に担当者が置かれていること、その名称はさまざまであり、そのなかに司籍に類似するものとして司典、司書があることに気づき、その上で司典が長州藩の明倫館、司書が佐賀藩の学校にあること、あわせて外国の事情を紹介する文献に訳語として見られる掌書、司者という表現などにも目を向けたかも知れず、そうして司典、司籍、司書（など）を専門職の名称の候補にするということがあったのではあるまいか。さらに明治始めには書籍館という表現が広く使われていたが、次第に東京師範学校図書室（1878）、東京書籍館が東京図書館（1880）、東京大学図書館（その典籍掛が図書課、1881）などに見られるように文部省が「典」や「籍」字を使わず、「図書」を用いるようになった流れを考慮して、司典や司籍（など）でなく「司書」を採ったのではなかろうか。決定のプロセスは簡単ではなかったかも知れないが、こうしたことが背景にあったのではあるまいか。

1906年10月図書館令改正されて「公立図書館ニ館長、司書及書記ヲ置クコトヲ得」となった。さらに1908年東京帝国大学官制が改正されたときに司書官・司書が図書館に置かれた。いずれも帝国図書館の司書という職名を受けての出来事であったろう。

以上、憶測に過ぎませんが、これまで取り立てて議論がなかったように思われるのであえて例会で話題にしました。わたしは精査した訳ではないので東京図書館以前に近代における図書館組織に「司書」を置いた事例があるかも知れず、また国立国会図書館の文書記録の綴りや田中稲城文書を自由に見ることができるようになれば、この憶測が正しい加減なものでしかなかったとなるかもしれず、そうであればお詫びする以外にありません。

#### 参考文献

『日本教育史資料』文部省、1890-1892。

特集「田中稲城君追憶録」「図書館雑誌」21-2、1927。

竹林熊彦「田中稲城：人と業績」「図書館雑誌」36-3、1942。

石井敦『図書館を育てた人々：日本編 I』日本図書館協会、1983。

『近代日本図書館の歩み 地方編』、日本図書館協会、1992。

県史、県教育史など若干の地方史誌。

△以下余談。藤沢周平『蝉しぐれ』には主人公牧文四郎の友人与之助が江戸で学んで帰藩し、藩校・三省館に先ず司書として迎えられ、後に助教になり、一室与えられたと書かれています。庄内藩の致道館がモデルになっていると考えられています。

#### 【発表2】

- 発表者  
宇治郷 毅

● 発表題名

基隆と石坂荘作先生—台湾に命を捧げた偉大なる一日本人の事跡を訪ねて—

● 発表要旨

昨年（2003年）2月、長年勤務した国立国会図書館を退職したのを機に、念願の台湾研究に着手し、10月台湾を訪問した。台湾は30年ぶりの訪問であったが、今回始めて基隆の地を訪れた。写真ではよく見、ある時は夢にまで見たこの港町に自分の足で立ってみて、私はこみあげる感激を抑えきれなかったものだ。

と言うのも、これほど私が基隆に思い入れをしたのには大きなわけがある。それは台湾とは何の関係も無かった私ではあったが、10数年ほど前日本統治時代の台湾の図書館についての論文を書くよう日本図書館協会から依頼され、始めて台湾と向き合って研究したのが契機となっている。その時初めて、この小文の主人公石坂荘作（1870-1940）先生の名前と先生が基隆に創った「石坂文庫」という台湾における最初の近代的図書館の存在を知った。

その後多忙でほとんどこの人物について研究する時間がなかったのであるが、このたび研究を再開し、石坂先生の業績を深く知るにつれ、その功績の大きさに感歎すると同時に、その人間的偉大さに感銘を深くするばかりであった。しかし、この人物は日本時代の台湾では若干有名であったが、戦後は完全に忘れ去られ、台湾関係史の中でもほとんど取り上げられることがない不思議な存在である。戦前基隆に住んだ方々の回顧録にもほとんど登場せず、たまに「石坂公園」（現「中正公園」）の名と共に思い出す方がある程度であった。

石坂先生は、1870（明治3）年群馬県吾妻郡原町（現在の吾妻町原町）に生まれ、1896（明治29）年台湾に渡った。1899（明治32）年に基隆に居を定め、逝去する1940（昭和15）年まで、家業の度量衡器販売、煙草卸業などの「石坂商店」を経営、そのかたわら知られているだけでも「基隆公益社」社長、「基隆商工会議所」会長、「台北州会」議員など40ほどの公職を担われた。大正8年には、「基隆婦人会」を設立、これは台湾におけるもっとも古い婦人会であった。また私費を投じて、昭和8年に「石坂公園」を設立したが、これは市民に憩いと行楽の場を提供した。また超多忙な生活の中で、『台湾踏査実記』、『御賜之余香』など私が確認しただけでも11冊の本を自費出版している。これらはいずれも現在の視点からみても台湾研究資料として学術的価値が高いものばかりである。

石坂先生の畢生の事業は、1903（明治36）年設立の「基隆夜学校」（後に、「私立基隆商業専修学校」、敗戦直前は「私立基隆商工専修学校」と改称）と1909（明治42）年設立の「石坂文庫」（昭和7年基隆市に移管）、1930（昭和5）年設立の「和洋裁縫講習所」（昭和11年、「基隆技芸女学校」として認可）の設立、運営であった。どちらも台湾における私立夜学校、私立女子職業学校、私立図書館の魁であった。先生の偉いところは、これら事業を官にたよらずほとんど独力で維持したこと、日本人と台湾人に完全に平等に門戸を開いたことであった。またその経営思想も先進的であった点である。学校からは、多くの有能な人物が輩出し、戦後の台湾で活躍されている。また石坂文庫の「巡回文庫」活動は、台湾内だけ

でなく、中国沿海都市、沖縄に及び、名実ともに日本内地の図書館活動を凌駕するものであった。惜しむらくは、これら三つの施設が 1945 (昭和 20) 年の米軍の基隆爆撃で焼失したことである。

このように石坂先生は、地元基隆だけでなく、当時の台湾の行政、産業、教育、衛生、社会事業、文化の発展に大きく貢献された。私はこのたびの基隆訪問で、先生の活動の跡をできるだけ探すべく先生の面影 (写真でしか知らないが) を心に抱いて、町のあちこちを歩き回った。しかし先生逝去後 60 年の歳月は、戦前を知らぬ者にも町は大きな変貌をとげたものと思わせた。石坂商店の跡は高層ビルになり、石坂文庫の跡は空き地となり、二つの学校跡も別の建物が建っていた。ただ石坂先生が朝夕眺めたであろう基隆港と石坂公園とこの町を囲む山々には在りし日のおもかげをどこかに留めているのであろうか。

このたびの基隆訪問で、私は思いがけぬ僥倖にめぐりあった。私は、今回基隆を訪問するまで、石坂先生に関心をもつ方が台湾にいるとは全然思ってもいなかった。しかし偶然にも、またありがたい事であるが、石坂先生に関心を寄せる基隆郷土史研究家の方々に会う機会があった。これは私にとり大きな驚きであったし、また大きな喜びでもあった。それは日本時代を知る陳徳潜氏、蔡英清氏、それに若手研究家陳青松氏、謝志成氏等との出会いであり、親切にもこの方々は石坂先生や基隆に関する多くの資料を提供してくださり、また心から歓待して下さった。これも「基隆聖人」とも言われた誠実で、篤行の偉大なる日本人石坂荘作先生のおかげであると心から感謝しているしだいである。

なお基隆夜学校は、現在その後身である「光隆高級家事商業職業学校」として発展し、また石坂文庫はその後身である「基隆市立文化センター図書館」として発展していることを、感謝を込めて付記しておく。

## 『図書館文化史研究』第 21 号が間もなく刊行されます

機関誌『図書館文化史研究』第 21 号が 9 月に刊行されます。

目次は次のとおりです。

● 講演記録

田村 俊作 レファレンスサービスの連続性と断絶

● 論文

高梨 彰 ライヴアルは百貨店 : 1912 年の図書館

鈴木 宏宗 国立国会図書館長としての金森徳次郎

● 史料紹介

小川 徹 東京、南品川に明治 25 年に設立された品川書籍館のこと

## 運営委員会通信

### ■ ■ 次回運営委員会のお知らせ ■ ■

次回運営委員会を、下記のように開催します。本研究会の運営に興味・関心のある方は、是非ともご参加ください。

当日ご都合の悪い方は、別記事務局まで郵便、ファックス、または電子メールで、ご意見、ご希望等をお寄せいただければ、運営委員会で検討いたします。

### 記

- 日 時 9月12日(日) 15時30分～16時30分
- 場 所 京都精華大学 黎明館 001 教室
- 内 容 1. 2004年度決算について  
2. 2004年度第2回研究例会について  
3. 25周年記念事業について

ほか

### ■ ■ 前回(臨時)・前々回運営委員会の報告 ■ ■

実施日：2004年6月19日  
2004年7月24日  
場所：明治大学(両回とも)

以下のような事項について、協議しました。

1. 『図書館文化史研究』第21号について
2. 『ニューズレター』第88号について
3. 『ニューズレター』第89号について
4. 2003年度の研究例会について
5. 2003年度研究集会について
6. 2003年度決算・2004年度予算について
7. 名誉会員の要件と推挙について
8. 2005-2007年度運営体制について
9. 25周年記念事業について
10. 会員動向
11. 次回運営委員会について

## 事務局だより

### ■■ 会費納入のお願い ■■

2004年度会費 3,000円をまだ納入されていない方は、至急ご送金ください。振替用紙は前号に同封しましたが、見当たらない方は事務局までご請求ください。

### ■■ 会員動向 ■■

新入会

所属・住所等変更

メールアドレス変更

退会

鮎沢 修 (2003年8月14日ご逝去)